

活用効果評価結果

令和2年度

四国地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS 情報	開発目標	省力化、経済性の向上			
	新技術登録番号	KK-180046-A	区分	製品	有用な技術の位置づけ
	分類	付属施設 - 路側工			
	新技術名	伸縮性目地部材「目地フォーム」			
	比較する従来技術(従来工法)	現場練りモルタル目地詰め			
新技術の概要及び特徴	歩車道境界ブロック等の目地部において、樹脂発泡体を伸縮目地部材として使用する技術である。				

活用効果評価	所見	<ul style="list-style-type: none"> 従来の目地モルタルに係る作業が削減できることから、経済性及び工程に優れる。 目地部材(樹脂発泡体)を貼り付けるのみであることから、施工性に優れる。 	<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p> <p>参考</p>
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	<ul style="list-style-type: none"> 活用効果調査の結果、活用現場の違いによる大きな差異は認められないため、情報種別記号を「-VE」とし、今後の活用効果調査、事後評価は実施しないものとする。 	
	留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 貼り付け面(目地部)が降雨等により湿潤状態の場合は施工が出来ない。 発泡体であることから破れやすいため、施工時に損傷しない用意注意が必要。 曲線部での活用については、メーカーへの確認が必要。 長期的な劣化等については日常点検にて確認することが望ましい。 	
	活用効果調査表における改良点及び要望	・特になし	

参考	活用効果調査結果	対象工事	1	道路復旧工事	従来技術: 歩車道境界ブロック目地	活用型: 施工者希望型(契約後提案)
			2	道路復旧工事	従来技術: 歩車道境界ブロック目地	活用型: 施工者希望型(契約後提案)
			3	道路改良工事	従来技術: 現場練りモルタル目地詰め	活用型: 施工者希望型(契約後提案)
			4	道路改良工事	従来技術: モルタル目地	活用型: 施工者希望型(契約後提案)
			5	道路改良工事	従来技術: モルタルによる目地	活用型: 施工者希望型(契約後提案)
			6	共同溝工事	従来技術: 現場練りモルタル目地詰め	活用型: 施工者希望型(契約後提案)
			7			
			8			
			9			
			10			
			11			
			12			
			13			
			14			
			15			
			16			
			17			
			18			
			19			
			20			

活用効果調査結果	ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)		
	項目	H30	H30	H30	H31	H31	H30																		
	施工時評価	経済性	B	B	B	B	B	B																B	C
		工程	B	B	B	A	B	B																B	C
		品質・出来形	C	C	C	C	D	C																C	C
		安全性	C	C	C	-	B	C																C	C
		施工性	B	B	B	B	A	B																B	C
		環境	C	C	B	B	B	-																C	C
その他	-	-	-	-	-	-																-	-		
総合評価点	C	C	B	B	B	C																B	C		
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後是非活用したい		活用を検討したい		場合によっては活用することもある		技術の改良を強く望む		各項目における判定																
	25%		42%		33%		0%		A	従来技術より極めて優れる															
									B	従来技術より優れる															
									C	従来技術と同等															
									D	従来技術より劣る															

追跡調査の必要性	・耐久性等の経過観察が必要な製品ではないため、追跡調査は必要ない。
追跡調査	・なし